



南アルプスの麓に眠る廃墟

—燕岩—

〔南信署〕大鹿村は、明治七年に旧鹿塩村と旧大河原村が合併してできた人口千三百人のひっそりとした農村ですが、一昔前は、人口が五千人を超えたこともあったそうです。銅を掘り出すため、また、かつて大河原国有林では営林署職員



燕岩に咲く花タマガワホトトギス



時間を溯っているかのような気分を味わうことができる燕岩

が材木を伐採するため、多くの人・物がこの燕岩の横を通っていたようです。

いまでは、その歩道も朽ち果て、険しい沢沿いをひたすら歩いていかなければなりません。しかし、沢沿いには、サワラの巨木や、赤・緑・白と様々な石が散在していたり、所々に歩道や吊り橋の跡が残っていたり、さらに、頭上には鉾山の跡らしき横穴もあり、まるで時間を溯っているかのような気分を味わうことができます。

この一帯は氷河期遺存植物のアオチャセンシダ等を含む遺存植物群落を保護する「燕岩植物群落保護林」にも設定されています。

皆さんも、目の前に広がる荘厳な風景を訪ねてみてはいかがでしょう。

〔アクセス〕

最寄りの駅は、JR中央本線伊那大島駅。大鹿村役場のある落合集落を南下し、飯田市上村との境にある青木林道の入口から、沢歩きを二時間。

〔注意〕

沢歩きには危険を伴います。事前に現地の状況を確認し、経験者と十分な装備をもって自己責任のもとでのぞんで下さい。